

競技・審判上の注意

- 1 本大会は、令和6年度(公財)日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程及び同公認審判員規程により行います。
- 2 棄権をする場合、各都道府県代表者が代表者会議までに、大会本部へその旨を申し出てください。代表者会議以降は、各都道府県代表者(代理人可)もしくは当該プレーヤーがレフェリーにその旨を申し出てください。(いずれの場合も、棄権届用紙に必要事項を記載し、提出してください。)また、他の都道府県とダブルスを組んでいる場合、両方から提出してください。
- 3 大会運営規程第19条により棄権したプレーヤーは、それより後の同一種目及び今大会にエントリーしている他の種目全てにおいて出場できません。ただし、ダブルスの場合、棄権したプレーヤーのパートナーは除くものとします。(この規程に関する最終決定はレフェリーの判断によります。)
- 4 プレーヤーの着衣に関しては、競技の品位を保つため、(公財)日本バドミントン協会の審査合格品とします。着衣上の背面、製造メーカーロゴを含む広告等の表示については大会運営規程第24条を遵守してください。また、ゼッケンを使用する場合には、必ず四隅を固定してください。
- 5 マッチの進行は、マッチ番号順に空いたコートから入れていきます。本部よりマッチのコール後、10分経過しても当該プレーヤーがコートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなします。
- 6 マッチが連続する場合は15分以内の休憩を認めます。
- 7 マッチ開始前に、3分以内のウォームアップ時間を設けます。各コートの主審の「レディー トゥ プレー」のコールでマッチ開始の準備をしてください。ウォームアップは、ダブルスの場合はパートナーと、シングルスの場合は対戦相手と行ってください。コーチ等のヒッティングパートナーとのウォームアップは認めません。ウォームアップ用のシャトルは各自で準備してください。
- 8 審判員配置構成は主審、線審2名で行います。サービスジャッジは原則として配置しません。但し、準決勝より、主審、サービスジャッジ、線審4名で行います。
- 9 線審は敗者線審制とします。敗者となったプレーヤーは、当該コートで線審を担当してください。シングルスでの敗者の場合、不足する線審については主催者側で行います。なお、準決勝からの線審は、主催者側で行います。
- 10 シャトルの交換については、主審が必要かどうかを決定します。また、使用シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
- 11 給水やタオルの使用については、必ず主審の許可を得てください。
容器についてはスクイズボトル等のフタ付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。飲み物用のトレイは置きませんので、コートサイドの各自のバックの中に置くようにしてください。クーラーボックスの持ち込み(コーチ席を含む)は認めません。ソフトクーラーバッグはコーチ席には持ち込みを認めます。なお、試合中の氷嚢の使用については、インターバルのときのみとします。
- 12 マッチ中のけがや病気については、応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。
- 13 各コートに、コーチ席を2席置きますが、コーチはマッチにふさわしい服装で臨んでください。マッチ中の電子通信機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等)の使用は禁止します。
- 14 競技規則で認められたインターバル時に、競技区域に入れるのは同時に2人までとします。
- 15 マッチ中のコートまたはコート周辺でのプレーヤーの電子通信機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等)が鳴った時は、競技規則第16条第6項(4)の違反とみなされ、競技規則第16条第7項が適用されます。
- 16 レフェリーにより失格を宣告されたプレーヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
- 17 空気調節装置(エアコンディショナー)の使用に関しては、大会運営規程第16条によりレフェリーが判断します。
- 18 大会に参加する審判員は、令和6年度(公財)日本バドミントン協会公認審判員行動規範を遵守してください。
(日バHP 参照)